

# トピックス

※トピックス記事の中には、議会のホームページで詳しく掲載しているものもありますので、ぜひ、ご覧ください。

## 九州北部豪雨災害犠牲者追悼式

多くの尊い命を奪い、未曾有の被害をもたらした「平成29年7月九州北部豪雨」の発生から一年となる平成30年7月5日、朝倉市と東峰村において、九州北部豪雨災害犠牲者追悼式が行なわれ、井上順吾議長及び地元県議の栗原渉議員が出席しました。

井上議長は、「発災直後より、皆様方は、お互いに助け合いながら様々な苦難を乗り越えてこられたことと存じます。しかし、今もなお多くの方が仮設住宅などで不自由な生活を余儀なくされている状況は、一日も早く解決すべき課題です。県議会といたしましても、被災地域の一日も

早い復興に向け、これまで同様、県行政と一体となり、皆様が安心して暮らせる社会の実現に全力を挙げるとともに、災害の記憶を風化させることなく、今後とも総合的な防災対策を推進してまいります」と、哀悼の言葉を述べました。



## 全国都道府県議会議長会定例総会

7月25日、東京都で開催された第160回全国都道府県議会議長会定例総会において新役員を選任が行われ、井上順吾議長が全国都道府県議会議長会副会長に就任しました。

総会では、役員等の選任のほか平成29年度決算の認定が行われ、議案審議では、「平成30年7月豪雨による災害に関する決議」など4件の決議案並びに「平成31年度政府予算編成並びに施策に関する提言」について審議が行われ、採決の結果、いずれの議案も原案のとおり可決しまし



た。翌26日には、総理との懇談会が行われ、7月豪雨に係る被害対応や地方創生を支える高速交通網の整備促進などブロックごとに発言し、政府との意見交換が行われました。

## 海外へ派遣される高校生が県議会を訪問

7月27日、福岡県とタイ王国・バンコク都との友好提携に基づく交流の一環で実施される、青少年海外派遣プログラムに参加される県内高校生9名の皆さんが、バンコク都への派遣を前に、県議会を訪問されました。県議会では、畑中茂広副議長をはじめ、福岡県タイ友好議員連盟の吉村敏男会長ほか役員が出迎え、訪問を歓迎しました。

畑中副議長は、「同世代の高校生やホームステイ先のファミリーとの交流を通じて、たくさんの方の事を学び、帰国後も交流が続くような親友をつくっててください。このプログラムにより、福岡県とバンコク都の結びつきがさらに強まることを大いに期待しています」と挨拶しました。



## 久留米アリーナ開館記念式典



平成27年から改築工事が行なわれていた福岡県立久留米スポーツセンター体育館、久留米市武道館、久留米市弓道場の工事を終え、3施設が一体となった「久留米アリーナ」が開館し、6月2日

に記念式典が行なわれました。本施設は、かねてより、地元からも整備を望む声が上がっていたことや、青少年を育成する中において大変重要な施設であることから、県議会としても整備を要望してきたもので、式典には井上順吾議長、川端耕一文教委員長をはじめ多くの議員が参加しました。

井上議長は「この久留米アリーナが、地域における人々の、スポーツを『する人』『観る人』『支える人』を支援し、充実を図るための拠点となり続けるよう、支援していく所存です」と挨拶し開館を祝いました。

## ブラジル日本移民110周年記念式典

7月17日から24日までの日程で、井上順吾議長と各党派の代表者等からなる福岡県議会と福岡県の訪問団が、ブラジル日本移民110周年記念式典に参加するためブラジルを訪問しました。

記念式典は眞子内親王殿下ご臨席のもと、サンパウロで21日に開催され、ブラジル側からは州知事や市長、外務省高官らが出席し、地元日系人による和太鼓や踊りのパフォーマンスが披露されました。

訪問団はこのほか開拓戦没者追悼慰霊碑法要を行うとともに、ブラジル福岡県人会との交流会や、スザノ福博村でブラジル福岡県人会スザノ支部50周年記念式典に参加するなど、福岡県人会との交流を深め、絆をより強固なものとししました。井上議長は県人会との交流会で「ブラジル

と日本を繋ぐ絆がしっかりと出来ていることを感じました。皆様方から頂いたお気持ちを県議会に伝えるとともに、次に向けての支援を行うことを約束します」とあいさつしました。



## 海外福岡県人会の子どもたちによる県議会訪問

7月9日、県の県人会担い手育成招へい事業で来県している海外福岡県人会の子どもたち21人と引率者・留学生（9カ国：ブラジル連邦共和国、ボリビア多民族国、コロンビア共和国、アメリカ合衆国、メキシコ合衆国、ペルー共和国、パラグアイ共和国、アルゼンチン共和国、カナダ）が県議会を訪問され、畑中茂広副議長と懇談しました。

畑中副議長は、「福岡滞在を楽しんで、素晴らしい思い出をたくさんつくってください。今回の交流が、福岡県と各国との結びつきをさらに強める契機となるよう期待しています」と挨拶しました。引率者を代表して、ブラジルの重エリッキ和男さんは、「国や言語が異なる私たちがここに集うのは、福岡県の子孫であるという共通点があるから。他の子どもたちにも同じ機会が得られるようこのプログラムを将来に渡って存続していただきたい」と挨拶されました。

